

授業概要（シラバス）

<作業療法学科 1 学年>

2024年度

学校法人 君津あすなろ学園
千葉医療福祉専門学校

2024年度 作業療法学科 開講科目一覧

1 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	心理学	通年	2	60
	情報コミュニケーション学Ⅰ	前期	1	30
	情報コミュニケーション学Ⅱ	後期	1	30
	情報コミュニケーション学Ⅲ	前期	1	15
	基礎数学	通年	2	30
	健康と身体	通年	1	30
	社会福祉概論	後期	1	30
	医学用語	通年	1	30
	公衆衛生学	後期	1	15
総合演習Ⅰ	通年	1	30	
専門基礎分野	人体の構造Ⅰ	前期	1	30
	人体の構造Ⅱ	後期	1	30
	人体の構造Ⅲ	前期	1	30
	人体の構造Ⅳ	後期	1	30
	人体の機能Ⅰ	前期	1	30
	人体の機能Ⅱ	後期	1	30
	運動学Ⅰ	後期	1	30
	リハビリテーション医学Ⅰ	後期	2	30
	病理学	後期	1	15
	救急救命法	通年	1	30
	リハビリテーション概論Ⅰ	通年	2	60
	作業療法概論	通年	2	60
基礎作業学	通年	2	60	
専門分野	地域リハビリテーション	後期	1	15
	職業リハビリテーション	通年	1	15
	見学実習	通年	1	45
26科目			32	単位

2 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	人間発達学	前期	1	30
	総合演習Ⅱ	通年	1	30
専門基礎分野	人体の構造実習	通年	1	30
	人体の機能実習	前期	1	30
	運動学Ⅱ	前期	1	30
	運動学Ⅲ	後期	1	30
	運動学実習	後期	1	30
	運動生理学	前期	1	15
	リハビリテーション医学Ⅱ	後期	1	15
	内科学	通年	2	60
	運動器病態学	通年	2	60
	臨床神経学	前期	2	60
	精神医学	通年	2	60
	臨床心理学	前期	1	30
リハビリテーション概論Ⅱ	通年	2	60	
専門分野	作業療法評価学Ⅰ	前期	1	30
	作業療法評価学Ⅱ	後期	1	30
	作業療法評価学Ⅲ	後期	1	30
	作業療法評価学Ⅳ	前期	1	15
	作業療法評価学実習Ⅰ	前期	1	30
	作業療法評価学実習Ⅱ	後期	1	30
	作業療法評価学実習Ⅲ	後期	1	30
	発達領域作業療法学Ⅰ	前期	1	20
	日常生活関連活動学	通年	3	60
	生活支援環境学	後期	1	15
	地域リハビリテーション実習	後期	1	45
その他	地域リハビリテーション実習演習	後期	1	15
27科目			34	単位

3 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	総合演習Ⅲ	通年	1	30
専門基礎分野	リハビリテーション医学Ⅲ	通年	2	30
専門分野	作業分析	通年	2	60
	作業療法研究法	後期	1	15
	作業療法管理学	前期	2	30
	発達領域作業療法学Ⅱ	通年	2	40
	整形疾患作業療法学	通年	3	60
	精神疾患作業療法学	通年	3	60
	老年期疾患作業療法学	通年	3	60
	中枢神経疾患作業療法学	通年	3	60
	作業療法技術論	通年	1	30
	義肢装具学	後期	2	30
その他	地域作業療法学	通年	2	30
	臨床評価実習	通年	9	360
	臨床評価実習演習Ⅰ	通年	1	30
	臨床評価実習演習Ⅱ	通年	1	30
16科目			38	単位

4 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
専門分野	臨床総合実習	前期	17	680
その他	臨床総合実習演習	通年	1	30
	総合演習Ⅳ	通年	5	175
	卒業研究	通年	2	60
4科目			25	単位

OT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		「自分を知る、他人を読む」、心理学の諸分野について基本的な理論を学び、自己を客観的に見る力と他人の行動を理解する力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通じて体験的に学び、客観的なデータを元に自己像を知ることができるようになる。 ・他者の心の中で生じていることを読み、理解できるようになる。 ・心理学各論を学び、基本的な心理学構成概念、用語について理解できるようにする。
心理学 (※ 前期15回)			
2単位	30回		
非常勤講師:渡邊馨 作業療法学科:兼子, 原, 早川他 理学療法学科:◎富永知里		この講義で学ぶこと・行動目標	
	項目		
1	心理学とは何か?	どうして心理学を学ばなければどうして心理学を学ばなければならないのか、臨床や他者理解、治療を実例に学習し、その必要性を理解してもらう。	
2	心理学と諸分野:行動経済学	心理学の基礎となる確率、統計について、行動経済学の実例を元に学習し、確率的な思考、科学的思考について理解し、心理学の方法論を利用できるようにする。	
3	性格心理学 ジョハリの窓演習	性格の心理学的定義を理解し、臨床場面において他者を理解する道具として使えるようにする。	
4	性格心理学 ジョハリの窓演習	性格の心理学的定義を理解し、臨床場面において他者を理解する道具として使えるようにする。	
5	性格の理論:類型論と特性論	性格理論について学習し、類型論、特性論を理解できるようにする。	
6	性格検査 質問紙法 エゴグラム演習	心理アセスメントについて学習し、心理検査の種類、内容を理解できるようにする。性格検査についてエゴグラムを用いて実習し、質問紙法性格検査を分析できるようにする。	
7	性格検査 質問紙法 エゴグラム演習	心理アセスメントについて学習し、心理検査の種類、内容を理解できるようにする。性格検査についてエゴグラムを用いて実習し、質問紙法性格検査を分析できるようにする。	
8	性格検査 質問紙法 エゴグラム演習	心理アセスメントについて学習し、心理検査の種類、内容を理解できるようにする。性格検査についてエゴグラムを用いて実習し、質問紙法性格検査を分析できるようにする。	
9	性格検査 投影法 バウムテスト演習	性格検査についてバウムテストを用いて実習し、投影法性格検査の内容を理解できるようにする。	
10	性格検査 投影法 バウムテスト演習	性格検査についてバウムテストを用いて実習し、投影法性格検査の内容を理解できるようにする。	
11	性格検査 投影法 バウムテスト演習	性格検査についてバウムテストを用いて実習し、投影法性格検査の内容を理解できるようにする。	
12	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
13	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
14	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
15	生理と心理 ストレスとコーピング	ストレスの仕組み、コーピングについて学習し、ストレスの仕組みを理解する。	
教科書・参考書・資料			
青木智子 医療と健康のための心理学 北樹出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:100点 (前期・後期のレポート、授業中の提出物)		授業では実習、実験、グループディスカッションなどの方法を用いることが多いので、遅刻等ないように留意すること。	

OT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		「自分を知る、他人を読む」心理学の諸分野について基本的な理論を学び、自己を客観的に見る力と他人の行動を理解する力を身につける。	実習を通じて体験的に学び客観的なデータを元に自己像を知ることができるようになる。他者の心の中で生じていることを読み理解できるようになる。心理学各論を学び基本的な心理学構成概念用語について理解できるようにする。心理学方法論を学習し科学的な思考法推論法を身につけられるようにする。
心理学 (※後期15回)			
2単位	30回		
非常勤講師：波達馨 作業療法学科：兼子, 原, 早川他 理学療法学科：◎冨永知里			
項目		この講義で学ぶこと・行動目標	
16	前期レポート講評	レポートを講評することで、医療現場における科学的で読みやすいレポートの書き方について学習する。	
17	記憶とその種類	記憶について学習し、記憶の種類、構造について理解する。	
18	記憶とその種類	記憶について学習し、記憶の種類、構造について理解する。	
19	学習・行動	学習理論について学習し、学習の種類、構造について理解し、学習による行動の変容を理解できるようにする。	
20	感覚・知覚・認知	感覚・知覚・認知についてその定義を理解し、人の認知処理を理解できるようにする。	
21	学習・認知心理学「方向感覚」	方向感覚に関する演習により、学習の仕組み、認知機能について理解する。	
22	心理アセスメント：知能	心理アセスメントのうち、知能に関する検査を実習し、知能についての定義、知能検査の種類について学習する。	
23	心理アセスメント：知能	心理アセスメントのうち、知能に関する検査を実習し、知能についての定義、知能検査の種類について学習する。	
24	動機・欲求	動機・欲求について学習し、医療現場で頻出する防衛機制について実例に基づき理解する。	
25	動機・欲求	防衛機制の定義、実例を学習し、防衛機制の種類、それぞれの定義、転移逆転移、について理解する。	
26	性格心理学 ジョハリの窓演習	ジョハリの窓演習を再度行い、前期結果との比較をして「自己開示」の変化を読み解く。	
27	発達心理学	発達について、子どものケースを中心に学習し、エリクソンの心理社会的発達理論を理解する。	
28	発達心理学	発達について、青年期のケースを中心に学習し、エリクソンの心理社会的発達理論を理解する。	
29	発達心理学	発達について、老人期のケースを中心に学習し、エリクソンの心理社会的発達理論を理解する。また認知症について学習する。	
30	まとめと振り返り	これまでの授業を総括し「自分を知る、他人を読む」心理学上の理論を再学習する。	
教科書・参考書・資料			
青木智子 医療と健康のための心理学 北樹出版			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：100点 (前期・後期のレポート、授業中の提出物)		授業では実習、実験、グループディスカッションなどの方法を用いることが多いので、遅刻等ないように留意すること。	

OT1年 前期		講義概要	一般目標
基礎分野		「学校生活の規則やルールを知る。また学生同士のコミュニケーションを図ることで親睦を深める。」ということを通じて学生生活また社会人における必要な能力を学びます。さらに4年間の学び方に関する内容に加え、自身の学ぶ姿勢・方法を確立していきます。	・学校生活を送るうえで自分に必要な準備や行動を理解して実践できる。 ・学びに必要なことを理解し、実践できる。 ・学びに必要なことをどのように実践していくか、自身の方法を獲得する。
情報コミュニケーション学 I			
1単位	15回		
作業療法学科:◎原悠平 作業療法学科教員			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	学生便覧読み合わせ・オリエンテーション【原】	学生便覧を確認し、学校規則について理解する。	
2	図書室利用法【原】	図書室の利用方法について理解する	
3	学年親睦会 ☆【原】	親睦会を通して、学科を超えて同学年の学生全員と適切なコミュニケーションを図る	
4	学年親睦会【原】	親睦会を通して、学科を超えて同学年の学生全員と適切なコミュニケーションを図る	
5	オリエンテーション【原】	学生生活を送るうえで必要な準備や方法について理解する。学生生活を送るうえで必要なルールを理解し、円滑な学生生活につなげることができる。	
6	社会人基礎力とは【武井】☆	社会人基礎力とは何かを学び、自身の社会人基礎力を知ることができる	
7	ノートテイキング【早川】☆	学習をすすめる上で、アウトプットを意識したノートの作成ができる	
8	文章の書き方【早川】	文章を書く基礎的な知識についての確認と実践ができる	
9	感染予防対策について【武井】	医療者として必要な感染予防対策について理解する	
10	協同学習【原】	協同学習の目的・方法を理解し、実践できる	
11	協同学習 ☆【原】	協同学習の目的・方法を理解し、実践できる	
12	医療スタッフとは【原】	医療者として何が必要な力・能力・人間力などについて理解を深める(グループワーク方式)	
13	医療スタッフとは ☆発表【原】	医療者として何が必要な力・能力・人間力などについて理解を深める(グループワーク方式)	
14	ディスカッション【原】	傾聴力・質問力を高めることで、対人交流場面に活用することができる	
15	ディスカッション ☆【原】	学校生活・クラスでの課題や目標などグループで話し合い、相互理解を深める	
教科書・参考書・資料			
初回は学生便覧を持参します。 必要な教科書などはその都度指示します。 協同学習では、人体の構造・人体の機能の教科書と資料を持参してください。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:100点 振り返りシート及び発表:60%(☆印箇所) 出席点:40%		グループワークや協同学習の機会が多くあります。主体的に参加していきましょう。	

OTI年	後期	講義概要	一般目標
基礎分野		キャリアについて学習しながら、社会人になるために必要なコミュニケーション能力、仕事に取り組む姿勢や仕事の進め方を見つけていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的な学習の目的を確認し、理解する。 ・能動的な学習の実践ができる。 ・自分の特徴を知り、自分らしさと「働く」ことについて考えることができる。 ・仕事に求められる役割や意義を認識し、「働く」ことの意味を深める。 ・様々なワークの中で、学び・気づいたことをもとにキャリアプランをつくる。
情報コミュニケーション学Ⅱ			
1単位	15回		
作業療法学科：◎武井亜由美, 原悠平			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	チーム学習を進めるために 【原】「話し合いの意義」	個人のワークとチームのワークを行っていくチーム学習の大切さとコツを知る。チーム学習を円滑に行うために大切なファシリテーションについて学び、メンバー同士の関わり方を身につけることができる。	
2	自己理解 ①「私の大切なもの探し」 【原】	自分の価値観を形作っている大切なものは自分にとってどのような重み、位置づけにあるのか、その現状を再認識し、メンバーと共有し、今後それをどう活かしていけばよいのかを考えられる。	
3	自己理解 ②「私ってどんな人？」 【原】	自己理解を深めることによって、自分自身を「他者に伝える」ことを意識して、「自己イメージ」を言語化・明確化できるようになる。「自分らしさ」とはどのようなものかを意識し、洞察を深められる。	
4	自己理解 ③「自分を知らずがかり」 【原】	自分から見た自分と、他人から見た自分が一致、または一致しなかった結果を受け止め、自分についての気づきを得る。人は他者との関わりの中で生きており、他者は自分が成長するための大切な存在であることを再認識する。	
5	自己理解 ④「過去を振り返ろう」 【原】	過去の人生上の出来事を通して、自分の人生に対する態度(心がまえ)の根っこにあるもの気づき、自分らしさについて考えられる。	
6	自己理解 ⑤「なぜ働くの？」 【原】	自分にとっての「働く理由」や思いについて洞察を深められる。メンバーの「働く理由」を聴き合い、他者と自分の「働く理由」「働く意味」の違いに気づき、多様な価値観があることを受け入れられるようになる。	
7	仕事理解 ①「地図を作ってみよう!!」 【武井】	仕事を行う上で必要な意識や態度について理解できる。自分のコミュニケーション特性を知り、仕事をする上で大切な円滑なコミュニケーションの取り方を体得する。	
8	仕事理解 ② 「ケーススタディで学ぶ実際の仕事」 【武井】	社会・組織の一員として、どのように行動すれば良いのかや、組織の中での自分の役割について考えられる。仕事を行う上で大切な仕事の進め方や、身につけておくべき基本的な意識と態度について理解できる。	
9	仕事理解 ③「インタビューしてみよう」 【武井】	働いている人は、どのようにしてその仕事に従事したのか、働くということとはどのようなことかが実感できる。仕事をするとは、収入を得るだけでなく、自分の生き甲斐や自己成長につながることを理解できる。	
10	仕事選択 ④ ~未来に向けて~ 【武井】「模擬店を出そう!!」①	仕事の進め方を模擬体験することで、全体の目標を達成するための組織の一員としての役割や「協働」について考えられる。	
11	仕事選択 ⑤ ~未来に向けて~ 【武井】「模擬店を出そう!!」②	仕事の進め方を模擬体験することで、全体の目標を達成するための組織の一員としての役割や「協働」について考えられる。	
12	仕事選択 ⑥ ~未来に向けて~ 【武井】「未来ページ」	キャリアの目標を実現するために具体的なキャリア・プランニングを行い、「学習目標」を明確にできる。	
13	企業・組織研究 「企業・組織を調べてみよう!!」① 【武井】	「企業や組織の特徴を理解し、自分との相性を考えながら志望する企業を見つける」という企業研究を通じてキャリア形成に必要なことを明確にできる。	
14	企業・組織研究 「企業・組織を調べてみよう!!」② 【武井】	「企業や組織の特徴を理解し、自分との相性を考えながら志望する企業を見つける」という企業研究を通じてキャリア形成に必要なことを明確にできる。	
15	まとめ 【武井・原】	今までの授業の振り返りを行い、自身の成長の確認をすることができる。 社会人基礎力	
教科書・参考書・資料			
未来ノート：一般財団法人職業教育・キャリア教育財団			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点 100点(原50点、武井50点) (未来ノート・企業研究報告書提出)		<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ、のり、色ペン(赤・青含む数色)、定規を準備してください。 ・グループワークを主として学習します。積極的に参加・表出する姿勢を持ちましょう。 	

OT1年	前期	講義概要	一般目標
基礎分野		保健医療福祉分野での業務遂行や、教育分野での課題遂行などにおいても、電子機器の利用は頻回である。本講義では、一般的な情報リテラシーを学びつつ、今後の修学に必要な基礎的な情報機器利用の習得を目標とする。	<p>◎パソコンおよびスマートフォンなど電子機器を用い、必要な情報を収集・作成し、他者に伝えることができる。</p> <p>○メールアプリを使用し、他者とやりとりができる。</p> <p>○ワードアプリを使用し、情報を作成できる。</p> <p>○収集・作成した情報の管理ができる。</p>
情報コミュニケーション学Ⅲ (※PC等の操作)			
1単位	8回		
作業療法学科：◎金谷優志, 原悠平			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション;講義概要 パソコンの基本操作について メール・カレンダー・クラウドストレージの使用	<p>○講義の予定,概要について理解する。</p> <p>○パソコンの基本操作を知り,操作できるようになる。</p> <p>☆アカウントを取得し,メールやクラウドストレージの利用ができるようになる。(課題提出①)</p>	
2	オフィスソフトウェアの概要 タイピングの練習	<p>○オフィスソフトウェアの概要を理解する。</p> <p>○各オフィスソフトウェアに共通する操作を習得する。</p> <p>△タイピングソフトの紹介と,タイピングの練習を行う。タイピングテスト実施得点を記録する。</p>	
3	文章アプリケーションの操作 レポート作成の体験	<p>○文章アプリケーションの基本的な操作方法を理解する。</p> <p>☆レポート表紙の作成練習(課題提出②)</p>	
4	プレゼンテーションアプリの操作 簡易的なプレゼンテーションの作成	<p>○プレゼンテーションアプリケーションの基本的な操作方法を理解する。</p> <p>○ファイル共有と共同作業を体験する。</p> <p>☆メールを使用し,ファイルを添付・送信できるようになる。(課題提出③)</p>	
5	表計算アプリケーションの操作	<p>○表計算アプリケーションの基本的な操作方法を理解する。</p> <p>○表計算アプリケーションを使用した,基本的な計算ができるようになる。</p> <p>※次回使用する情報の提示</p>	
6	表計算アプリを使用した情報操作	<p>○収集した情報をもとに,表計算アプリを使用して,自分の知りたい情報を導き出す。</p> <p>☆グループワーク(課題提出④)</p>	
7	オフィスソフトの総合的利用 タイピング課題	<p>○オフィスソフトウェアを利用して,情報を整理し,他者に伝えるための情報を作成する。</p> <p>○他者に情報を伝えるための効果的な方法を検討する。</p> <p>△タイピング課題:第2回実施得点を元に,成長度を確認する。</p>	
8	まとめ 課題発表	<p>□作成した情報を他者の前で発表する。</p>	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書:指定なし 資料:適時メールにて配信予定 情報:Gメール https://www.google.com/intl/ja/gmail/about/ マイタイピング https://typing.twil.me/ イータイピング https://www.e-typing.ne.jp/roma/check/</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>素点:△実技課題/40点(タイピング) 平常点:☆課題提出/40点(10点×4回) □課題発表/20点</p>		<p>○パソコンおよびスマートフォンを使用します。自分のパソコンを持っている方はできるだけ持ってきて下さい。</p> <p>○課題提出は主にメールまたはクラウドにて行います。使用方法は講義内で連絡いたします。</p> <p>○タイピングは日々の練習・積み重ねが重要です。自主的に練習していきましょう。</p>	

OT1年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		力学を中心とした物理学と、その基礎となる数学について、基本的なものの見かたや考えかたを解説し、演習を行う。高校物理は前提としないが、「自分のあたまで考える」心がまえは必須である。	数学を使った表現に慣れ、「読み書き」ができるようになる。さまざまな物理現象を物理学の目で見ることができ、物理学の考えで説明できるようになる。またそこにかかわる物理量の意味が理解でき、計算ができるようになる。
基礎数理学 (※前期8回)			
2単位	16回		
理学療法学科：秋山大輔			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	第1章 四則演算	整数・少数の計算、四捨五入、平方根の計算など	
2	第2章 比の計算	比と比例式、比の値と比の計算	
3	第3章 三角関数	整数・少数の計算、四捨五入など、比と比例式、比の値と比の計算	
4	第11章 運動強度・カロリー計算	代謝とエネルギー代謝率、代謝当量(Mets)、BMIと標準体重、消費エネルギー	
5	第11章 運動強度・カロリー計算	代謝とエネルギー代謝率、代謝当量(Mets)、BMIと標準体重、消費エネルギー	
6	第11章 運動強度・カロリー計算	代謝とエネルギー代謝率、代謝当量(Mets)、BMIと標準体重、消費エネルギー	
7	第5章 神経伝導速度 第14章 四分表	神経伝導速度の計算、四分表の計算	
8	理解度確認	確認テスト(前期)	
教科書・参考書・資料			
教科書：PT・OT国家試験対策ワークブック 計算問題 医師薬出版			
判定基準／割合		履修上の留意点	
素点：5点、平常点45点、計50点。 後期も同様の割合で判定する。		進行状況によっては、前倒して進みます。早め早めに予習をするようにしてください。また数学を苦手としている学生は早めに教員に質問するようにしてください。	

OT1年 通年		講義概要	一般目標
基礎分野		力学を中心とした物理学と、その基礎となる数学について、基本的なもののかたや考えかたを解説し、演習を行う。高校物理は前提としないが、「自分のあたまで考える」心がまえは必須である。	数学を使った表現に慣れ、「読み書き」ができるようになる。さまざまな物理現象を物理学の目で見ることができ、物理学の考えで説明できるようになる。またそこにかかわる物理量の意味が理解でき、計算ができるようになる。
基礎数理学 (※後期8回)			
2単位	16回		
作業療法学科:金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
9	物理量について(後期)	単位の意味を理解し、単位の変換ができる	
10	第4章 速度とか速度(後期)	速度、加速度、重力加速度、 $v-t$ グラフを理解し、計算ができる	
11	第6章 力と仕事(後期)	力と質量、重さ、運動の法則、仕事率を理解し、計算ができる	
12	第6章 力と仕事(後期)	実技を交えて、力や運動の法則について理解を深める	
13	第8章 てこの計算(後期)	内力と外力、モーメント、てこのつり合いを理解し、計算ができる	
14	第8章 てこの計算(後期)	実技を交えて、モーメントについて理解を深める	
15	第12章 回転運動のトルクと仕事率(パワー)(後期)	トルクとモーメントについて理解し、計算ができる	
16	理解度確認	筆記試験	
教科書・参考書・資料			
教科書:PT・OT国家試験対策ワークブック 計算問題 医師薬出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:100点(後期試験) 平常点:0点		授業内では解説の時間を多くとるようにします。 授業前までに予習をし、理解の難しい部分を明確にしてください。 実験の回では、動きやすい服装を準備してください。	

OTI年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		実際に体を動かし、座学で学んだ基礎知識の活用方法を学ぶ。	患者に限らず、対象者の運動学習を促すにあたり、自らの体験・経験を踏まえた上での運動指導ができるようになる。
健康と身体			
1単位	15回		
非常勤講師:川原元 作業療法学科:金谷,兼子,武井 理学療法学科:◎富永知里			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
2	健康と身体	側転 振りつけ グループワーク ダイナミックストレッチ	
3	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
4	健康と身体	振りつけ グループワーク 体幹トレーニング	
5	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
6	健康と身体	側転 振りつけ グループワーク	
7	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
8	健康と身体	振りつけ グループワーク 3点倒立	
9	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
10	健康と身体	振りつけ グループワーク 3点倒立	
11	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
12	健康と身体	3点倒立、自重コアトレーニング	
13	健康と身体	ストレッチ・準備体操 体幹筋トレ 3点倒立	
14	健康と身体	3点倒立、自重コアトレーニング	
15	習得度確認	実技試験	
教科書・参考書・資料			
なし。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点:100点 実技試験・レポートより総合的に判定		動きやすい服装で臨むこと	

OTI年 後期		講義概要	一般目標
基礎分野		社会福祉は「国民一人一人のよりよい生活を支えるための社会的努力や方策の総体」です。医療や福祉の専門職は多くの社会資源を知り有効に活用できる力が必要です。この授業では社会福祉の概念、対象者、具体的な制度のポイント、高齢社会の動向、今後の課題について学習します。	1 社会福祉の基本となる概念を理解する。 2 福祉ニーズを持つ人を支える法や制度を理解する 3 現在の医療・保健・福祉の実態、今後の課題を知る。
社会福祉概論			
1単位	15回		
非常勤講師:佐藤真生子 作業療法学科:武井亜由美 理学療法学科:◎秋山大輔			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	社会福祉と生活問題	社会福祉の概念、社会福祉の対象、生活問題との関係について学ぶ	
2	社会福祉を取り巻く社会状況	超高齢社会の現状を知る	
3	社会福祉の原理①	ノーマライゼーション思想とはどのようなものか	
4	社会福祉の原理②	自己決定、自立について考える	
5	障害者の福祉①	障害とは何か 障害者福祉の発展	
6	障害者の福祉②	障害者の福祉を支える諸制度 事例から考える	
7	障害者の福祉③	障害者総合支援法のポイント	
8	高齢者の福祉①	高齢期の特徴 高齢者の生活実態	
9	高齢者の福祉②	要介護高齢者と介護問題	
10	高齢者の福祉③	介護保険法のポイント	
11	貧困問題と社会福祉①	貧困の定義、日本の貧困の動向	
12	貧困問題と社会福祉②	所得を保障する法律や制度の概要を押さえる	
13	子ども家庭福祉①	子どもの権利、子育て・子育てをめぐる課題	
14	子ども家庭福祉②	子ども福祉を支える諸サービス	
15	理解度の確認	本試験	
教科書・参考書・資料			
参考書:●新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉、メディカルフレンド社 ●山縣文治、岡田忠克編 「よくわかる 社会福祉」第10版 ミネルヴァ書房 ●NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会「医療福祉総合ガイドブック」医学書院 ●岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著「ウェルビーイングタウン社会福祉入門」有斐閣アルマ			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:リフレクションシート20点 兼点:本試験80点		TV、新聞、ネットなどで福祉や医療のニュースを意識して視聴してください。	

OT 年	通年	講義概要	一般目標
基礎分野		見学先で目にする物品の名称や職員が使う専門用語がわかるように、またレポートに正しく記載できるように1年次でもよく使う用語について調べながら覚えていく。 運動学や人体の構造、2年時の専門科目を本格的に学ぶ前に基礎的な用語を体験しながら覚えていく。	①専門用語の読み方・漢字・定義・略字を覚え、正しく記載できる。 ②不明な用語について自分で適切に調べる事ができる。 ③見学実習先で関わる用語を理解し、専門用語を正しく使用したレポートが書ける。 ④学んだ用語を日常で使用できる。
医学用語			
1単位	15回		
作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	補装具・職種	職種と略語 杖・装具の種類と名称 車椅子の種類と各部名称	
2	補装具・職種	車椅子乗車・操作体験	
3	運動	小テスト:車椅子各部名称 各関節の運動と英語(英語は書けなくても良いが単語を見て意味が分かる事)	
4	人体・肢位・筋	小テスト:運動方向 人体の各部名称、肢位、筋の名称	
5	人体・肢位・筋	人体の各部名称、肢位	
6	脳血管障害関連用語	小テスト:肢位 脳出血と脳梗塞、脳血栓と脳塞栓の違い 調べ方の練習	
7	症状・障害	麻痺の分類 調べ方の練習	
8	身体機能領域の用語精神機能領域の用語	身体機能領域・精神機能領域で用いられる用語を調べ、正しく読める、漢字で書ける、意味が分かる。	
9	身体機能領域の用語精神機能領域の用語	身体機能領域・精神機能領域で用いられる用語を調べ、正しく読める、漢字で書ける、意味が分かる。	
10	身体機能領域の用語精神機能領域の用語	身体機能領域・精神機能領域で用いられる用語を調べ、正しく読める、漢字で書ける、意味が分かる。	
11	疾患調べ	各自、担当する疾患について調べまとめる。 (読み方、略字、概要、治療等)	
12	疾患調べ	各自、担当する疾患について調べまとめる。 ※レポート提出(提出方法については別途指示する) (読み方、略字、概要、治療等)	
13	疾患(発表)	各自調べた疾患について発表する。	
14	疾患(発表)	各自調べた疾患について発表する。	
15	学習理解度確認	1~14回で学んだ用語について説明できる。	
教科書・参考書・資料			
教科書:無し。適宜プリントを配布します。 参考書:上田敏/大川弥生 編 「リハビリテーション医学大辞典」医歯薬出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点 84点(後期に全範囲実施、100点満点×0.84) 平常点 16点(レポート5点、発表5点、 小テスト3回×各2点) *小テストは満点2点、8割1点、8割以下は0点。 再テストは何度でも可		国語辞典、英和辞典、医学事典、電子辞書等持っている方は持参。	

OT1年	後期	講義概要	一般目標
基礎分野		人間は社会の中で生きる存在である。一人のひとの健康や人生は社会から大きな影響を受け、一方で、一人ひとりの人が全体として社会を作っているともいえる。公衆衛生の授業では私たちの健康に影響を与える諸要素について理解を深める。特に健康行動、環境保健、医療政策の3つに軸を置いて授業を行う。	公衆衛生の概念と重要性、我が国における健康を支える社会のシステムや取り組みを学び、社会的な面からも健康をとりえる視座を持つことができる。
公衆衛生学			
1単位	8回		
非常勤講師:山瀧,小倉 作業療法学科:武井亜由美 理学療法学科:◎秋山大輔			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	総論	医療と公衆衛生の歩み、健康と公衆衛生の概念、公衆衛生分野におけるキーワードについて解説する。	
2	保健統計	公衆衛生指標のうち重要なものについて、その概念と我が国における動向を学ぶ。	
3	医の倫理と法令	医療・公衆衛生分野における、倫理や法令について学ぶ。	
4	社会保障と医療経済	我が国における社会保障体制について知り、また医療経済の現状を学ぶ。	
5	感染症対策	社会全体や医療機関における感染症対策について、その基礎的な事項を学ぶ。	
6	母子保健・高齢者保健	各領域における公衆衛生指標と現状の課題を理解し、国や社会の取り組みについて学ぶ。	
7	障害者保健・精神保健	各領域における公衆衛生指標と現状の課題を理解し、国や社会の取り組みについて学ぶ。	
8	理解度の確認	本試験実施	
教科書・参考書・資料			
教科書:真野喜洋「スタンダード公衆衛生学」文光堂 2002年 参考書:山崎喜比古、朝倉隆司「生き方としての健康科学」有信堂高文社 1999年			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:10点 棄点:本試験90点		講義のみならず、多くの参加型ワークショップによって授業を進める。	

OT1年 通年		講義概要	一般目標
基礎分野		1. 1~3年生でのグループ学習を行う。6回の授業を通して課題を理解し、理解した内容について発表する。各回において事前・事後課題に取り組む。 2. 1年生でのグループ学習を行う。1年次の学習の給まとめとして国家試験問題に取り組み、2年次の学習につなげる。年度末学力テストへ向けての学習ともなる。	1. 質問することを通じ、能動的な学習態度を身につけることができる。また、現在学んでいる内容の必要性・関連性等を理解して、学習意欲向上につなげることができる。 2. 1年次に学んだ内容について理解し、2年次の学習につながるよう知識を定着化することができる。
総合演習 I			
1単位	15回		
作業療法学科：原悠平			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション	1~3年生でのグループ学習の進め方について理解することができる。合同グループで1回目の事前学習に取り組むことができる。	
2	課題授業①	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる。	
3	課題授業②	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる。	
4	課題授業③	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる。	
5	課題授業④	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる。	
6	課題授業⑤	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる。	
7	課題授業⑥	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる。	
8	発表①	6回の授業を通じ、提示された課題についてグループで協力して資料を作成し、発表することができる。	
9	発表②	6回の授業を通じ、提示された課題についてグループで協力して資料を作成し、発表することができる。	
10	課題演習オリエンテーション プレ学習体験	問題演習の方法、進め方について説明・体験をして理解できる。	
11	課題演習①	グループ学習で問題に取り組み理解することができる。 ミニテスト	
12	課題演習②	グループ学習で問題に取り組み理解することができる。 ミニテスト	
13	課題演習③	グループ学習で学んだことを確認する 挑戦問題(3科目模試過去問題実施)	
14	課題演習④	グループ学習で学んだことを確認する 挑戦問題(3科目模試過去問題実施)	
15	課題演習⑤	グループ学習で学んだことを確認する 挑戦問題(3科目模試過去問題実施)	
教科書・参考書・資料			
主に人体の構造・人体の機能・運動学の教科書・ノートを使用する。 その他、その都度指示をする。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点(100点) ①3学年グループ課題 事前課題3点×6回 事後課題3点×6回 12点×1回 ②ミニテスト・挑戦問題 10点×5回 ③学習態度 2点		課題の理解に重点を置き、能動的に学習に取り組むこと。	

OTI年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>正常な人体の構造を理解し、その構造がどのように機能発現に関わっているのかを学ぶ。 正常な構造と機能が基となり、病気の成り立ちを理解することが、それに基づいた診断と治療・リハビリの裏付けとなり科学的根拠を深めることになる。</p>	<p>◎全身の概ねの構造について説明できる ◎身体の階層構造について説明できる ◎骨とその詳細な部位について説明できる ◎関節の構造について説明できる</p>
<p>人体の構造 I (※骨・関節の解剖学)</p>			
1単位	15回		
<p>作業療法学科:◎金谷優志 理学療法学科:秋山大輔</p>			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	<p>オリエンテーション【金谷】 解剖学総論 (教科書;第1章 I Ⅲ p3-20)</p>	<p>○「人体の構造 I」の講義概要を理解する。教科書の構成を確認する。 ○解剖学の目的、解剖学的位置および方向と位置を示す解剖学用語を理解する。 ○身体は細胞、組織、器官、系統の階層構造からなることを理解する。</p>	
2	<p>骨学総論【金谷】 (教科書;第2章 I p37-45)</p>	<p>○骨の構造や発生について総論的に理解する。 ○骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を正確に知る。 ○なぜ存在するのかを理解しながら、個々の骨の特徴的な構造を学習する。</p>	
3	<p>骨学各論 上肢の骨①【金谷】 上肢帯(鎖骨・肩甲骨) (教科書;第2章 II p68-71)</p>	<p>○鎖骨・肩甲骨の構造について理解する。 ○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。 ○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
4	<p>骨学各論 上肢の骨②【金谷】 自由上肢骨(上腕骨) (教科書;第2章 II p71-72)</p>	<p>○上腕骨の構造について理解する。 ○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。 ○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
5	<p>骨学各論 上肢の骨③【金谷】 自由上肢骨(橈骨・尺骨) (教科書;第2章 II p72-74)</p>	<p>○橈骨・尺骨の構造について理解する。 ○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。 ○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
6	<p>骨学各論 上肢の骨④【金谷】 自由上肢骨(手根骨・中手骨・指骨) (教科書;第2章 II p74-77)</p>	<p>○手根骨・中手骨・指骨の構造について理解する。 ○各骨の詳細部位や、そこに付着する物について理解する。 ○各骨の連結を大まかに知る。</p>	
7	<p>関節靭帯学総論【金谷】 (教科書;第3章 I p97-112)</p>	<p>○骨の連結の正常な構造と機能を総論的に学ぶ。 ○骨の連結を3種類に大別して、それらの安定性と可動性を比較する。 【体験・実技】自身の身体を動かして、関節の可動を知る(動きやすい服装で)</p>	
8	<p>骨学各論 脊柱・胸郭①(秋山)</p>	<p>脊柱の構造(椎体・椎弓・棘突起)や頸椎・胸椎・腰椎の構造の違いについて理解する</p>	
9	<p>骨学各論 脊柱・胸郭②(秋山)</p>	<p>胸郭の構造(肋骨の構造・形態・脊柱との関係性)について理解する</p>	
10	<p>骨学各論 下肢の骨①(秋山)</p>	<p>骨盤の構造(腸骨・坐骨・恥骨・寛骨、骨盤)について理解する</p>	
11	<p>骨学各論 下肢の骨②(秋山)</p>	<p>自由下肢骨(大腿骨・膝蓋骨)の構造について理解する</p>	
12	<p>骨学各論 下肢の骨③(秋山)</p>	<p>自由下肢骨(脛骨・腓骨)の構造について理解する</p>	
13	<p>骨学各論 下肢の骨④1回目(秋山)</p>	<p>自由下肢骨(足根骨・中足骨・趾骨)の構造について理解する</p>	
14	<p>骨学各論 下肢の骨④2回目(秋山)</p>	<p>自由下肢骨(足根骨・中足骨・趾骨)の構造について理解する</p>	
15	<p>まとめ 理解度の確認</p>	<p>○本試験</p>	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書:野村嶺(編):標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野,解剖学.第5版,医学書院,2015. 参考書:Wynn Kapitほか(著),嶋井和世(訳):カラースケッチ解剖学.第3版,廣川書店,2003. 松村謙児:イラスト解剖学.第8版,中外医学社,2014. 補助教材:WEB玉塾,https://www.webtamajuku.com/kango</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>素点:前期試験/70点 平常点:小テスト/30点</p>		<p>○講義は、主に教科書・模型を用います。補助的に視聴覚教材を用います。 ○毎回、前回授業内容の小テストを実施します。</p>	

OTI年 後期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>正常な人体の構造を理解し、その構造がどのように機能発現に関わっているのかを学ぶ。</p> <p>正常な構造と機能が基となり、病気の成り立ちを理解することが、それに基づいた診断と治療・リハビリの裏付けとなり科学的根拠を深めることになる。</p>	<p>◎骨格筋の一般的な構造と機能を理解する。</p> <p>◎人体の主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する。</p> <p>◎各筋の起始・停止・走行・支配神経・作用について理解する。</p>
<p>人体の構造Ⅱ</p> <p>(※筋の解剖学)</p>			
Ⅰ単位	Ⅰ5回		
<p>作業療法学科:◎金谷優志</p> <p>理学療法学科:秋山大輔</p>			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	<p>オリエンテーション【金谷】</p> <p>筋学総論</p> <p>(教科書;第4章Ⅰ p161-176)</p>	<p>○「人体の構造Ⅱ」の講義概要を理解する。教科書の構成を確認する。</p> <p>○筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用、骨格筋の神経支配</p>	
2	<p>筋学総論【金谷】</p> <p>(教科書;第4章Ⅰ p161-176)</p>	<p>○筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用、骨格筋の神経支配</p> <p>※前回内容の小テストを実施する</p>	
3	<p>筋学総論【金谷】</p> <p>(教科書;第4章Ⅰ p161-176)</p>	<p>○筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用、骨格筋の神経支配</p> <p>※前回内容の小テストを実施する</p>	
4	<p>上肢帯の筋・上腕の筋【金谷】</p> <p>(教科書;第4章Ⅱ p196-199)</p>	<p>○上肢帯、上腕の筋について構造(起始・停止・走行・作用・神経支配)を知る</p> <p>※前回内容の小テストを実施する</p>	
5	<p>前腕の筋(屈筋群・伸筋群)【金谷】</p> <p>(教科書;第4章Ⅱ p199-207)</p>	<p>○前腕の屈筋・伸筋について構造(起始・停止・走行・作用・支配神経)を知る</p> <p>※前回内容の小テストを実施する</p>	
6	<p>手の筋(手内在筋)【金谷】</p> <p>(教科書;第4章Ⅱ p207-210)</p>	<p>○手内在筋について(起始・停止・走行・作用・支配神経)を知る</p> <p>※前回内容の小テストを実施する</p>	
7	胸部の筋(秋山)	大胸筋、小胸筋、前鋸筋、内外肋間筋、横隔膜、呼吸筋とその補助筋、呼吸運動について	
8	腹部の筋(秋山)	腹直筋、内外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、腹筋をしたときの活動	
9	背部の筋(秋山)	僧帽筋、広背筋、菱形筋群、肩甲挙筋、脊柱起立筋について詳細に学習する	
10	顔面の筋(秋山)	表情筋(眼輪筋、口輪筋、前頭筋、睪眉筋など)と咀嚼筋(大頬骨筋、側頭筋、翼突筋)	
11	股関節周囲の筋(秋山)	臀筋群、外転筋、外旋筋について	
12	大腿の筋(秋山)	大腿四頭筋、ハムストリングス、大腿外側の筋について	
13	下腿の筋(秋山)	前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋について	
14	足の筋(秋山)	足底筋、その他足指の筋について	
15	まとめ 理解度の確認	○本試験	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書:野村嶺(編):標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野、解剖学、第5版、医学書院、2015。</p> <p>参考書:Wynn Kapitほか(著)、嶋井和世(訳):カラースケッチ解剖学、第3版、廣川書店、2003。</p> <p>松村謙見:イラスト解剖学、第8版、中外医学社、2014。</p> <p>補助教材:WEB玉塾、https://www.webtamajuku.com/kango</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>満点:90点(総論25点、各論65点)</p> <p>平常点:10点(小テスト)</p>		<p>○講義は、主に教科書・自身の身体を用います。補助的に視聴覚教材を用います。</p> <p>○なるべく動きやすい服装で出席してください。</p> <p>○毎回、前回授業内容の小テストを実施します。</p>	

OT1年 前期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>正常な人体の構造(循環器・消化器)を理解し、その構造がどのように機能発現に関わっているかを学ぶ。正常な構造と機能が基になり病気の成り立ちを理解することが、それに基づいた診断と治療・リハビリの裏付けとなり科学的根拠を深めることになる。本講義の内容は次年度の疾患学である「内科学」に繋がっていく。</p> <p>「循環器と消化器」</p>	<p>人体における全身の正常な構造(循環器・消化器)やそれに関係する事象について理解でき、他者に説明できることを目標とする。</p>
<p>人体の構造Ⅲ</p> <p>(※ 総論・循環器・消化器)</p>			
1単位	15回		
<p>作業療法学科:◎原悠平</p> <p>理学療法学科:岡村安優</p>			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	総論	生物基礎までの復習:動物の分類、呼吸と循環、消化管	
2	総論	生物基礎までの復習:神経系と反射、細胞、細胞分裂、DNAなど	
3	総論	生物基礎までの復習:優性遺伝と劣性遺伝、常染色体と性染色体。伴性遺伝など	
4	循環器系 総論/各論	総論 血管 肺循環/体循環 脳血管 心臓周囲の血管	
5	消化器系 総論・各論	消化器の流れ	
6	消化器系 各論	口腔、咽頭	
7	消化器系 各論	食道、胃	
8	消化器系 各論	小腸(十二指腸・空腸・回腸)、大腸(盲腸・結腸)	
9	消化器系 各論	肝臓、胆のう、膵臓	
10	消化器系 各論 代謝	糖質代謝	
11	消化器系 各論 代謝	脂質代謝	
12	消化器系 各論 代謝	蛋白質代謝	
13	消化器系 各論 代謝	ビタミン など	
14	症例演習	<p>肌トラブル (細胞小器官 消化器系 糖質代謝 蛋白質代謝 ビタミン などの知識の活用)</p> <p>ダイエットの効果やリスク (脂質代謝 蛋白質代謝 ビタミン などの知識の活用)</p>	
15	理解度確認	筆記試験・前期授業の振り返り	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 第5版、医学書院</p> <p>教科書:からだが見える 人体の構造と機能 第1版、メディックメディア</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>平常点:28点 {レポート(2点×14回)}</p> <p>素点:72点 {筆記試験(72点)}</p>		<p>毎回授業後にレポート課題が出されます。</p> <p>指定された日までにレポートを提出することでレポート点を加算します。</p>	

OTI年 後期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>正常な人体の構造を理解し、その構造がどのように機能発現に関わっているかを学ぶ。正常な構造と機能が基になり病気の成り立ちを理解することが、それに基づいた診断と治療・リハビリの裏付けとなり科学的根拠を深めることになる。本講義の内容は次年度の「内科学」や「臨床神経学」に繋がっていく。</p>	<p>人体の全身の正常な構造(神経系や泌尿器・生殖器・内分泌・呼吸器・感覚器)について理解でき、他者に説明できることを目標とする。</p>
<p>人体の構造Ⅳ</p> <p>(※ 神経系・泌尿器・生殖器・内分泌・呼吸器・感覚器)</p>			
1単位	15回		
<p>作業療法学科:原悠平</p> <p>理学療法学科:◎秋山大輔</p>			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	神経総論(秋山)	中枢および末梢神経などの神経系の構造と発生を学ぶ	
2	中枢神経系(秋山)	大脳皮質・間脳の構造について学ぶ	
3	中枢神経系(秋山)	中脳・橋の構造について学ぶ	
4	中枢神経系(秋山)	延髄・小脳の構造について学ぶ	
5	中枢神経系(秋山)	脊髄神経の構造と機能を学ぶ	
6	脳から脊髄までの伝道路(秋山)	皮質脊髄路・皮質延髄路について理解する	
7	復習(秋山)	秋山担当コマについて復習する	
8	感覚器 総論【原】	皮膚、視覚器(眼窩・眼球)	
9	感覚器 各論【原】	聴覚器(聴覚・平衡感覚)	
10	感覚器 各論【原】	味覚・嗅覚器	
11	呼吸器 総論/各論【原】	総論 上気道	
12	呼吸器 各論【原】	下気道	
13	呼吸器 各論【原】	肺・胸膜	
14	泌尿器生殖器 総論/各論【原】	腎・泌尿器・生殖器など	
15	理解度確認【原・秋山】	筆記試験・前期授業の振り返り	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学、医学書院</p> <p>教科書:からだが見える 人体の構造と機能 第1版、メディックメディア</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>平常点:28点</p> <p>{レポート(2点×14回)}</p> <p>期末点:72点</p> <p>{筆記試験(72点)}</p>			

OT1年 前期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		基礎となる細胞の一般生物学や、個体としての生命を成り立たせている機能系について包括的に学ぶ。植物性機能、特に消化器系・代謝以外を範囲とする。演習では実際に知識を問題解決のために用い理解することで、日常生活における生理的反応への関心を高めることを目的としている。 ～「生きるため」の機能を学ぶ～	各機能系について、物理的・化学的要素を出発点に、現象の生理学的な説明ができる。臨床的意義を理解し、生理学的なディスカッションができる。
人体の機能 I (※ 植物性機能の生理学)			
単位	15回		
理学療法学科:◎岡村安優 作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	血液～赤血球～	血液の成分・生成・分化、赤血球の機能、貧血の病態の基礎について説明できる。	
2	血液～免疫系～	白血球の機能、アレルギーの病態の基礎について説明できる。	
3	血液～血液凝固系・線溶系～	血液の成分・生成・分化、血小板の機能、動脈硬化の病態の基礎について説明できる。	
4	循環器系①	最高血圧・最低血圧について説明できる。血圧測定の結果を解釈し、説明できる。	
5	循環器系②	血圧調整(圧受容器反射、バルサルバ現象)、息を止めて運動をしてはいけない理由を説明できる。	
6	泌尿器系	腎臓(ネフロンなど)・膀胱(排尿反射など)の機能、再吸収と分泌、排尿反射について説明できる。	
7	呼吸器系①	呼吸と呼吸調節(化学受容器反射・ヘーリングブロイヤー反射)、自発呼吸のメカニズムについて説明できる。	
8	呼吸器系②	酸塩基平衡、呼吸性代償と腎性代償、運動時に換気が増えるメカニズムについて説明できる。	
9	内分泌系①総論・性	内分泌系とはなにか、主に月経周期について説明できる。	
10	内分泌系②血圧・血糖	血圧調整・血糖調整の内分泌的機序、降圧薬などの作用機序について説明できる。	
11	内分泌系③骨代謝関連	骨形成と骨吸収、リモデリング、骨粗鬆症・骨軟化症の病態の基礎について説明できる。	
12	自律神経系	交感神経と副交感神経、闘争か逃走か反応について説明できる。	
13	症例演習(お酒の飲みすぎによる生理反応について)①初期	循環(紅潮・心拍数増加)・呼吸(頻呼吸)・泌尿器(多尿)の知識の活用。飲酒後の具体的な介抱方法の根拠について、生理学的に説明できる。	
14	症例演習(お酒の飲みすぎによる生理反応について)②末期(脂肪肝・胆石)	血液(肝炎・黄疸・出血傾向)・内分泌(骨軟化症)の知識の活用。長期飲酒時の身体症状について、生理学的に説明できる。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
参考書:竹内昭博著『Qシリーズ 新生理学』日本医事新報社 2021			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:筆記試験 86点 平常点:課題提出 14点		※必ずノートを持参すること。また写すだけでなく、理解するためのノートを作成すること。※課題提出については、次回の授業の前日17:00までに提出すること(14コマ目の講義分に関しては、講義から1週間後を期限とする)。1回につき1点を付与する。	

OTI年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		細胞の一般機能を基礎として、個体としての生命を成り立たせている機能系について包括的に学ぶ。動物性機能の感覚・統合・運動系までを範囲とする。 ～「動くため」の機能について学ぼう～	各機能系について、物理的・化学的要素を出発点に、現象の生理学的な説明ができる。臨床的意義を理解し、生理学的なディスカッションができる。
人体の機能Ⅱ (※ 動物性機能の生理学)			
1単位	15回		
理学療法学科:◎岡村安優 作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	筋(構造による特性)	弾性要素、収縮要素、羽状筋、紡錘状筋、生理的断面積について説明できる。	
2	筋(筋力の変動について:筋長)	興奮収縮連関(連結橋・フィラメント滑走説)、長さ張力曲線について説明できる。	
3	筋(筋力の変動について:収縮速度)	収縮様式(求心性・等尺性・遠心性)、長さ張力曲線について説明できる。	
4	筋(筋力の変動について)	筋線維タイプ(赤筋・白筋など)、運動単位(動員とサイズの原理)	
5	神経(中枢神経系レベル) 中枢解剖・機能・発生	大脳(大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核)、小脳、間脳、脳幹(中脳・橋・延髄)、脊髄、脳室系の機能について説明できる。	
6	神経(運動系レベル) 下行性伝導路(中枢・末梢)①	錐体路(皮質脊髄路)、錐体外路(網様体脊髄路等)、脊髄反射(伸張反射)	
7	神経(運動系レベル) 下行性伝導路(中枢・末梢)②	脊髄反射($\alpha\gamma$ 連関・筋紡錘の構造)について説明できる。	
8	神経(運動系レベル) 下行性伝導路(中枢・末梢)③	脊髄反射(I b抑制・腱紡錘の構造)	
9	神経(感覚系レベル) 上行性伝導路(一般感覚系)①	温痛覚・触圧覚・感覚受容器、脊髄視床路、脊髄小脳路、後索路について説明できる。	
10	神経(感覚系レベル) 上行性伝導路(特殊感覚系)②	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚の受容器について説明できる。	
11	神経(末梢神経系) 脳神経	末梢神経と、脳神経の概要について説明できる。	
12	神経(細胞レベル)	静止膜電位と活動電位の発生機序について説明できる。	
13	神経(細胞レベル)	神経伝導について説明できる。	
14	神経(組織レベル)	シナプス伝達について説明できる。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
参考書:竹内昭博著『Qシリーズ 新生理学』日本医事新報社 2021			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:筆記試験 86点 平常点:課題提出 14点		※必ずノートを持参すること。また写すだけでなく、理解するためのノートを作成すること。※課題提出については、次回の授業の前日17:00までに提出すること(14コマ目の講義分に関しては、講義から1週間後を期限とする)。1回につき1点を付与する。	

OT1年 後期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		運動の理解に必要な基礎力学および運動解析に必要な解剖学の基本を学ぶ。 また、運動に関わる生理学的メカニズムについて学習する。	運動を力学的にとらえ生理学的に説明できることを目標とする
運動学 I (※ バイオメカニクス, 身体の基本動作)			
1 単位	15 回		
作業療法学科:◎金谷優志 理学療法学科:藤原正之			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	さまざまな姿勢 【基礎運動学 p355-364】【金谷】	○ヒトの運動や行動を理解する基礎となる, さまざまな姿勢の分類を知り, 体験する。 ○さまざまな姿勢の状態を, 記述できるようになる。	
2	姿勢と姿勢制御の基本概念 【教科書 p32-43】【金谷】	○姿勢や運動の基礎的な概念である, 重心と支持基底面について理解する。 ○さまざまな姿勢制御に利用される情報や機構について体験を通して理解する。	
3	運動の中枢神経機構 【基礎運動学 p117-135】【金谷】	○前回実施した姿勢制御機構に関わる反射・反応について, 理解を深める。 ○発達の見地より, 反射・反応を学習する。	
4	【実習】基本動作の体験① 座位・立ち上がり 【教科書 p108-113,130-139】【金谷】	○座位姿勢および立ち上がり動作の基本を理解する。 ○体験および観察を通し, 人による座位・立ち上がりの違いに気づく。 ○座位姿勢および立ち上がり動作を運動学的に記述できるようになる。	
5	【実習】基本動作の体験② 臥位・起き上がり 【教科書 p50-53,88-97】【金谷】	○臥位姿勢および起き上がり動作の基本を理解する。 ○体験および観察を通し, 人による臥位・起き上がりの違いに気づく。 ○臥位姿勢および起き上がり動作を運動学的に記述できるようになる。	
6	【実習】基本動作の体験③ 寝返り 【教科書 p62-73】【金谷】	○寝返り動作の基本を理解する。 ○体験および観察を通し, 人による寝返りの違いに気づく。 ○寝返り動作を運動学的に記述できるようになる。	
7	まとめ【金谷】 リハビリテーションへの応用に向けて	○体験した基本動作を, 再度, 運動学的に理解する。 ○姿勢や動作と, 対象者の生活とのつながりについて検討する。(グループワーク)	
8	運動学とその領域(藤原)	○運動学の総論について理解する。 ○随意運動の階層性から運動学を学習する目的を理解する。 ○次回に授業に向けた課題作成。	
9	立ち上がり動作基礎①[p130-150](藤原)	○立ち上がり動作を通して動作に関わる運動・要素について理解する。 ○事前課題に記入しながら立ち上がり動作に関する知識を整理する。	
10	立ち上がり動作基礎②[p130-150](藤原)	○立ち上がり動作を阻害する要因等について考える。 ○学んだ内容から他科目とのつながりを理解する。 ○次回の授業に向けた課題作成。	
11	歩行の基礎知識①[p170-201](藤原)	○歩行を通して動作に関わる運動・要素について理解する。 ○事前課題に記入しながら歩行に関する知識を整理する。	
12	歩行の基礎知識②[p170-201](藤原)	○各相における関節角度変化、筋活動、モーメントについて理解する。 ○正常歩行における各機能の役割について理解する。	
13	歩行の基礎知識③[p170-201](藤原)	○各相における関節角度変化、筋活動、モーメントについて理解する。 ○正常歩行における各機能の役割について理解する。	
14	まとめ(藤原)	○これまでの授業の振り返りを実施する。	
15	学習理解度の確認	○試験を通じて理解度を確認する。	
教科書・参考書・資料			
教科書:弓岡光徳ほか(編):基本動作の評価と治療アプローチ,メジカルビュー社,2017. 参考書:中村隆一ほか(著):基礎運動学,第6版補訂,医歯薬出版株式会社,2012. 適宜資料を配布する			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:80点(金谷分50点,藤原分30点) 平常点:20点(藤原:課題提出)		【実習】と記載のある回には,動作の体験を行いますので,ジャージなど動きやすい服装で出席してください。また,他者と接触する可能性があるため,アクセサリ類は外し,長い髪はヘアゴムやピンで留めるようにしてください。	

OT1年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		教科書は「リハビリテーション 生化学・栄養学」を用いる。岩熊の担当は、P72-103を中心に「運動と栄養」「リハビリテーションと栄養」「栄養評価」「主な病態の栄養管理」を講義とグループワークを用い学ぶ。	セラピストとして現場に出た際、患者や利用者に対して活用できる知識を得ることができる。更に、グループディスカッションを通して、現場に出た際に、カンファレンス等で多職種の前で発言する場に慣れることができる。
リハビリテーション医学Ⅰ (栄養・予防)			
2単位	15回		
非常勤講師:岩熊麻美, 他 作業療法学科:兼子健一 理学療法学科:◎富永知里			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	運動と栄養 リハビリテーションと栄養 低栄養と過栄養【岩熊】	運動と栄養 リハビリテーションと栄養 低栄養と過栄養	
2	運動と栄養 リハビリテーションと栄養 低栄養と過栄養【岩熊】	項目1の内容を加味したグループディスカッション	
3	糖尿病【岩熊】	糖尿病とは。糖尿病の栄養管理。糖尿病とリハビリテーション。	
4	糖尿病【岩熊】	項目3の内容を加味したグループディスカッション	
5	低栄養とサルコペニア【岩熊】	低栄養とは。低栄養の評価。サルコペニア。サルコペニアの評価。低栄養、サルコペニアのリハビリテーション。	
6	低栄養とサルコペニア【岩熊】	項目5の内容を加味したグループディスカッション	
7	予防とは? ～理論と実際の生活から考える【鈴木】	作業行動理論や作業科学の視点から、予防(毎日の生活)を考える	
8	介護予防について【浦部】	介護予防概論 君津市での介護予防を考えよう 地域での介護予防の実例	
9	介護予防について【浦部】	介護予防とは 地域包括ケアシステムの中での役割 介護予防のターゲット 実践!やってみようコグニサイズ(実技)	
10	地域での介護予防の実例【浦部】	PTとは?OTとは?～PTができる事、OTができる事(個人・グループ検討) 地域での介護予防の実例 実施プログラムを考えよう(個人・グループ検討)	
11	やってみよう、介護予防【浦部・関口】	フレイル サルコペニア 認知症 コグニサイズ	
12	講義当日に配布する【板倉】	講義当日に配布する	
13	講義当日に配布する【板倉】	講義当日に配布する	
14	講義当日に配布する【板倉】	講義当日に配布する	
15	筆記試験	理解度の確認	
教科書・参考書・資料			
リハビリテーション 生化学・栄養学 内山 晴 他 医歯薬出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点:40点 平常点:60点		筆記試験試験は、後期試験期間に実施する。	

OTI年	後期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		病理学とは病気の原因、発生のしくみ、経過、転帰(病気の結末)などの一連の過程を調べ、病気及び病的状態の本質を研究する学問です。 本講義では、リハビリテーション領域において必要とされる病理の知識を中心に講義します。解剖学・生理学の知識とつなげ、2年次の臨床医学の理解へとつなげる科目です。	・リハビリテーション領域に必要とされる病理的知識を理解し説明できる。 ・解剖学、生理学の知識と関連付けて説明することができる。
病理学			
1単位	8回		
作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	細胞・組織とその障害 再生と修復	<input type="checkbox"/> 細胞と組織の基本的構造を理解できる。 <input type="checkbox"/> 細胞が障害を受けた結果、どのような変化が生じるかを説明できる。 <input type="checkbox"/> 組織には細胞死と再生があることを説明できる。 <input type="checkbox"/> 生体には修復があることを説明できる。	
2	循環障害	<input type="checkbox"/> 血液とリンパ液の循環を理解できる。 <input type="checkbox"/> 循環障害の原因と引き起こされる病態を説明できる。 <input type="checkbox"/> 血行動態の障害による病態と体液バランスの障害による病態を説明できる。 <input type="checkbox"/> 高血圧の原因と合併症について理解する。	
3	循環障害	<input type="checkbox"/> 血液とリンパ液の循環を理解できる。 <input type="checkbox"/> 循環障害の原因と引き起こされる病態を説明できる。 <input type="checkbox"/> 血行動態の障害による病態と体液バランスの障害による病態を説明できる。 <input type="checkbox"/> 高血圧の原因と合併症について理解する。	
4	炎症 免疫とアレルギー	<input type="checkbox"/> 炎症の原因、炎症による病気がどのように起きるのか説明できる。 <input type="checkbox"/> 炎症に関わる血管、白血球、化学伝達物質、サイトカインがそれぞれどのような働きをしているのか説明できる。 <input type="checkbox"/> 急性炎症と慢性炎症の特徴を理解できる。 <input type="checkbox"/> 免疫系のしくみと役割を説明できる。 <input type="checkbox"/> アレルギー及び自己免疫疾患の基本的な発生機序について説明できる。	
5	感染症 代謝異常	<input type="checkbox"/> 感染様式や潜伏期間について理解する。 <input type="checkbox"/> 感染対策の基本的事項について説明できる。 <input type="checkbox"/> 正常の代謝の状態を理解し、異常の状態を説明できる。 <input type="checkbox"/> 脂質異常症、糖尿病、Mgがリファクトロームについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 代謝異常の続発症の一つに動脈硬化があることを説明できる。	
6	感染症 代謝異常	<input type="checkbox"/> 感染様式や潜伏期間について理解する。 <input type="checkbox"/> 感染対策の基本的事項について説明できる。 <input type="checkbox"/> 正常の代謝の状態を理解し、異常の状態を説明できる。 <input type="checkbox"/> 脂質異常症、糖尿病、Mgがリファクトロームについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 代謝異常の続発症の一つに動脈硬化があることを説明できる。	
7	腫瘍	<input type="checkbox"/> 腫瘍の定義と分類について説明できる。 <input type="checkbox"/> 発がんのメカニズム、腫瘍の形態学的特徴、発育・進展のしかたを説明できる。 <input type="checkbox"/> がんの主な原因や臨床上的特徴を説明できる。	
8	学習理解度の確認	1~7回で学んだ内容について説明できる	
教科書・参考書・資料			
教科書:渡辺照男 編集 カラーで学べる病理学第5版 人体の構造、人体の機能の教科書・プリント類			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点 70点 平常点 30点(ノート提出課題)		<input type="checkbox"/> 授業開始前に該当部分の解剖学・生理学の内容復習を行ってください。 <input type="checkbox"/> 講義後は整理ノートの記入、教科書「学習課題」へ取り組み次の授業前に提出をすること(ノート提出課題)。 <input type="checkbox"/> 教科書を通読し、理解できるように努力しましょう。	

OTI年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		・基礎講習と救急員養成講習の内容を3日間で学びます。 ・手当の基本、人工呼吸・胸骨圧迫の方法、AED(自動体外式除細動器)の使用法、気道異物除去の方法などを学びます。 ・急病の手当、止血、三角巾の使い方、けが、傷の手当、骨折の手当、搬送などを学びます。	修了検定に合格し、「赤十字ベーシックライフサポーター」認定証「赤十字救急法救急員」認定証を取得する。
救急救命法			
1単位	15回		
作業療法学科:◎兼子健一,原悠平			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	救急救命法	赤十字救急法救急員養成講習会 1日目 ○オリエンテーション ○救急救命法について(学科)(実技) ・救急救命法とは ・手当の基本 ・傷病者への接し方 ・現場での留意点	
2	救急救命法	○一次救命処置(学科)(実技) ・一次救命処置とは ・一次救命処置の手順 ・心肺蘇生法とは ・気道確保 ・人工呼吸 ・心臓マッサージ ・AEDを用いた除細動 ・気道異物除去	
3	救急救命法	○包帯法(学科)(実技) ○基礎学科検定 ○実技検定	
4	救急救命法		
5	救急救命法		
6	救急救命法	赤十字救急法救急員養成講習会 2日目 ○急病について(学科) ・心臓発作 ・脳卒中 ・熱中症 ・中毒 ○けがについて(学科) ・応急手当の必要性 ・きず ・骨折 ・各部のけが ・特殊なけが ○きずの手当について(学科)(実技) ・止血(直接圧迫、間接圧迫) ・包帯 三角巾(頭、耳、胸、肩、手)	
7	救急救命法	○骨折の手当について(学科)(実技) ・固定(鎖骨、足首、前腕、下腿、膝、アキレス腱) ○搬送について(学科) ・搬送の必要性	
8	救急救命法	○救護について(学科) ・災害時の心得 ・災害被害を軽減する国民運動 ・留意事項	
9	救急救命法		
10	救急救命法		
11	救急救命法	赤十字救急法救急員養成講習会 3日目 ○搬送について(実技) ・1人で背負って運ぶ ・肩を貸して歩かせて ・担架 ・応用担架 ○救護(実技) ・総合実技(救護趣味レーション)	
12	救急救命法	○実技の復習 ○学科検定 ○閉講式	
13	救急救命法		
14	救急救命法		
15	救急救命法		
教科書・参考書・資料			
別途指示する。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:100点 平常点:0点		動きやすい服装(ジャージ等実技可能な服装、スカート不可)、筆記用具 素点は筆記試験の得点で評価する。	

OTI年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーションの概略とその考え方を学ぶ。医学、医療の知識について少しずつ説明をする。	<input type="checkbox"/> 自分がどのような仕事に就くのかを考えながら専門的な知識を修得することに対して興味と関心を持つことができる。 <input type="checkbox"/> 専門用語に触れ、その用語の意味を理解する。
リハビリテーション概論 I (※ 前期15回)			
2単位	30回		
理学療法学科:秋山大輔 作業療法学科:兼子健一			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	リハビリテーションとは(秋山)	リハビリテーションの定義、職務内容。作業療法士・理学療法士の業務内容。各ライフステージに対するリハビリテーションの業務イメージ。	
2	リハビリテーション倫理(秋山)	リハビリテーションの取り巻く現状、ニーズを知る。リハビリテーション職種に求められる倫理観、哲学。患者に接する際に何を気をつけなければならないのか。	
3	廃用症候群(生活不活発病)(秋山)	廃用症候群とはどういうものなのか。循環器系の廃用症状。呼吸器系の廃用症状とそれ以外の病態も含めて理解する。	
4	チーム医療各職種の紹介(秋山)	チーム医療を構成する職種の紹介。チームアプローチのメリット・デメリット。各関連職種の役割の違い。各職種の養成形態や就業年数。	
5	社会保障制度と医療保険制度、介護保険制度(秋山)	社会保障制度の概要。リハビリテーションが関わる社会保障制度の範囲。リハビリテーションの診療報酬。地域医療構想について。	
6	医療事故、障害者スポーツ指導者について(秋山)	危険予知トレーニングの体験。医療事故・インシデントの定義。リハビリテーションが直面する医療事故について。障害者スポーツ指導者の資格を理解。	
7	全国障がい者スポーツ体験【秋山 兼子】	障害者スポーツ体験	
8	全国障がい者スポーツ体験【秋山 兼子】	障害者スポーツ体験	
9	全国障がい者スポーツ大会の概要【兼子】	全国障害者スポーツ大会の開催目的や実施競技、一般競技とは異なる点などの概要を学ぶとともに、大会がスポーツ未経験や初心者の方のスポーツ参加の大きな動機づけになっていることを理解する。 <input type="checkbox"/> 大会開催の目的 <input type="checkbox"/> 競技規則の原則 <input type="checkbox"/> 実施競技の概要	
10	機能評価なしには機能訓練を始められない【兼子】	機能評価の重要性 診断・評価法に求められるもの 診断・評価の進め方 機能障害・能力評価の重要性 障害の帰結予測	
11	機能障害にはどんな評価法があるの?【兼子】	障害モデル 障害評価の重要性 機能障害の評価方法	
12	能力低下(能力障害)の評価方法を習得しよう【兼子】	能力低下の評価の意義 日常生活活動の評価方法 歩行障害の評価	
13	環境因子とは?【兼子】	環境の要素(文化的 社会的 物理的 制度的 環境と作業遂行	
14	医療・福祉と法律 地域リハビリテーション【兼子】	医療者に関する規制 医療保険制度 老人保健法 公的年金 身体障害者福祉法 児童福祉法 老人福祉法 介護保険法	
15	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム【兼子】	地域リハビリテーション 地域包括ケアシステム	
教科書・参考書・資料			
適宜プリントを配布します。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:40点 棄点:60点		グループワークを中心に授業を展開します。活発なディスカッションをお願いします。 1~6回は提出物あり。(36点) 7~15回は授業内でミニテストを4回実施します。(24点)	

OT1年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーションの概略とその考え方を学ぶ。医学、医療の知識について少しずつ説明をする。	☑自分がどのような仕事に就くのかを考えながら専門的な知識を修得することに対して興味と関心を持つことができる。☑専門用語に触れ、その用語の意味を理解する。
リハビリテーション概論 I (※ 後期15回)			
2単位 30回			
理学療法学科:秋山大輔 作業療法学科:兼子健一 他, 非常勤講師			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
16	障害者スポーツ大会 11/16(土)AM	障害者スポーツ大会に参加し、体験を通じて理解を深める。	
17	障害者スポーツ大会 11/16(土)AM	障害者スポーツ大会に参加し、体験を通じて理解を深める。	
18	リハビリと法律	リハビリと法律の関係について弁護士より学ぶ	
19	チームアプローチ総論	チームアプローチについて。コメディカル職種についての紹介。	
20	医師とは	医師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
21	医師とは	医師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
22	医師とは	医師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
23	看護師とは	看護師の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
24	言語聴覚士とは	言語聴覚士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
25	言語聴覚士とは	言語聴覚士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
26	社会福祉士とは	社会福祉士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
27	社会福祉士とは	社会福祉士の業務内容・働く領域・職務内容・体験を通じて学ぶ。	
28	理学療法士・作業療法士 チームアプローチについて	多職種連携のリハビリテーションについてグループワークを通じて理解する	
29	理学療法士・作業療法士 チームアプローチについて	多職種連携のリハビリテーションについてグループワークを通じて理解する	
30	理学療法士・作業療法士 チームアプローチについて	多職種連携のリハビリテーションについてグループワークを通じて理解する	
教科書・参考書・資料			
適宜プリントを配布します。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:76点 兼点:24点		医師、看護師、ST、社会福祉士の講義では感想文の提出(6×4=24点)	

OTI年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		作業療法全体を見渡すための科目です。作業療法士に求められる資質や適性、記録や報告など、作業療法を行うにあたり最低限必要とされる知識を学びます。身体機能、精神機能、発達過程、高齢期の各専門領域について導入的に説明します。	<input type="checkbox"/> 作業療法を実践できるようになるために、作業の意味や作業療法の原理を理解し、積極的に学習していく態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 作業療法士としての基本事項をふまえるために、必要な教育体系や他職種との関係を理解する。 <input type="checkbox"/> 作業療法を実践するために、一連の過程を修得する。
作業療法概論 (※前期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:◎原悠平 作業療法学科教員, 非常勤講師			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	作業の意味	<input type="checkbox"/> 作業療法の定義 <input type="checkbox"/> 医療とリハビリテーションの理念 <input type="checkbox"/> 作業療法における「作業」	
2	作業療法の実際①	<input type="checkbox"/> 障がい者体験を通じて、作業療法とは何かを思考する	
3	作業療法の実際②	<input type="checkbox"/> 障がい者体験を通じて、作業療法とは何かを思考する	
4	作業療法の実際③	<input type="checkbox"/> 障がい者体験を通じて、作業療法とは何かを思考する	
5	作業療法の歴史と原理	<input type="checkbox"/> 作業療法の歴史 <input type="checkbox"/> 作業療法の原理	
6	作業療法の理論	<input type="checkbox"/> 理論を学ぶ目的 <input type="checkbox"/> 作業療法の諸理論	
7	作業の分析/リーズニング	<input type="checkbox"/> 作業分析・リーズニングとは <input type="checkbox"/> 作業分析・リーズニングの目的 <input type="checkbox"/> 作業分析・リーズニングの手法 <input type="checkbox"/> 評価と治療への適用	
8	作業療法の実際④	<input type="checkbox"/> 事例を通じて作業療法を理解する	
9	作業療法の実際⑤	<input type="checkbox"/> 事例を通じて作業療法を理解する	
10	作業療法の実際⑥	<input type="checkbox"/> 作業療法の仕組み <input type="checkbox"/> 評価と問題点の抽出	
11	作業療法の実際⑦	<input type="checkbox"/> 治療プログラムの立案・フォローアップ <input type="checkbox"/> 臨床的思考過程と作業療法士の自己活用	
12	作業療法とは何か?① インスタグラム投稿資料作成	<input type="checkbox"/> シナリオ提示 <input type="checkbox"/> グループワーク: チーム結成(チーム目標の明確化、チームメンバーの役割決定) <input type="checkbox"/> グループワーク: 何を作るか? 何を盛り込むか? 何を調べるか? 話し合い	
13	作業療法とは何か?② インスタグラム投稿資料作成	<input type="checkbox"/> 作成作業 チーム目標に向かって力を合わせて作業することを体験する。	
14	作業療法とは何か?③ 作成物発表	<input type="checkbox"/> 各グループの発表 <input type="checkbox"/> ディスカッションを通じてさらに理解を深める。	
15	まとめ 理解度確認	<input type="checkbox"/> 筆記試験を通じて理解度を確認する。 <input type="checkbox"/> 後期の作業療法概論の授業への課題と目的を明らかにする。	
教科書・参考書・資料			
二木淑子, 能登真一(編): 標準作業療法学 作業療法学概論 第4版, 医学書院, 2021.			
判定基準/割合		履修上の留意点	
【前期15回分】 平常点: 20点 (出席点 10点 提出物 10点) 満点: 80点 (筆記試験 80%)		平常点の提出物については、4回目、11回目、14回目が対象になります。	

OT 年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		作業療法全体を見渡すための科目です。作業療法士に求められる資質や適性、記録や報告など、作業療法を行うにあたり最低限必要とされる知識を学びます。身体機能、精神機能、発達過程、高齢期の各専門領域について導入的に説明します。	<input type="checkbox"/> 作業療法を実践できるようになるために、作業の意味や作業療法の原理を理解し、積極的に学習していく態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 作業療法士としての基本事項をふまえるために、必要な教育体系や他職種との関係を理解する。 <input type="checkbox"/> 作業療法を実践するために、一連の過程を修得する。
作業療法概論 (※ 後期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:◎原悠平 作業療法学科教員, 非常勤講師			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
16	急性期の作業療法過程 【塩田記念病院:沢本先生】【兼子・原】	<input type="checkbox"/> 作業療法が提供される可能性のある5つの分野において、作業療法士がどのように作業療法を展開しているのかを理解していく <input type="checkbox"/> 各分野において提供される作業療法の共通点や相違点に気付き、今後の学習が作業療法の臨床現場に繋がっていくことを認識する	
17	回復期の作業療法過程 【船橋リハ:峯下先生】【兼子・原】		
18	精神機能領域の作業療法過程 【京友会病院:加藤先生】【兼子・原】		
19	発達領域の作業療法過程 【県リハセンター:三屋先生】【兼子・原】		
20	地域領域の作業療法過程 【花くじら:浦部先生】【兼子・原】		
21	まとめ 作業療法の過程【武井】	【作業療法とは何か】のプレゼンテーションの作り方についてオリエンテーションを行う。	
22	作業療法とは? プレゼンテーション作成【原】	<input type="checkbox"/> 前期作成物および、見学実習・後期講義で学習・理解したことを踏まえて、他者に作業療法を紹介・説明するためのプレゼンテーションを作成する <input type="checkbox"/> また、生じた疑問を、文献などで調べたり、教員に確認することで、より知識や理解を深める <input type="checkbox"/> グループワークを通して、情報共有・意見交換・プレゼンテーションなど、今後の学習や将来のチーム医療に必要なスキルを経験、修得する	
23	作業療法とは? プレゼンテーション作成【原】		
24	作業療法とは? プレゼンテーション作成【原】		
25	作業療法とは? プレゼンテーション作成【原】		
26	発表会 プレゼンテーションの実施【武井】	教員・学生の前でプレゼンテーションを行う	
27	発表会 プレゼンテーションの実施【武井】	教員・学生の前でプレゼンテーションを行う	
28	作業療法の実践過程①【原】	<input type="checkbox"/> 評価と問題点の抽出 <input type="checkbox"/> 作業療法の専門性/臨床的思考過程と作業療法士の自己活用	
29	作業療法の実践過程②【原】	<input type="checkbox"/> 臨床的思考過程と作業療法士の自己活用 <input type="checkbox"/> 作業分析と評価の結びつき	
30	作業療法の実践過程③【原】	<input type="checkbox"/> 事例を通じて作業療法を理解する <input type="checkbox"/> SOAPに基づいたカルテの書き方	
教科書・参考書・資料			
二木淑子, 能登真一(編):標準作業療法学 作業療法概論 第4版, 医学書院, 2021			
判定基準/割合		履修上の留意点	
【後期15回】 平常点:100点 (課題提出 20点, 出席点80点)			

OTI年 通年		講義概要	一般目標
専門分野		対象者の作業を提案できるようにするために、作業が治療法として成り立つ要件と治療法としての根拠を理解した上で様々な作業を体験し、各作業について考察する。	①対象者に身体機能・心理機能・社会的活動などの目的に応じた作業を提案できるようにするために、物づくりを通して作業の意味・要素・機能を考察する。 ②作業に使用する道具の名称と用途を覚える。 ③基礎作業学に関する問題が解ける。
基礎作業学 (※ 前期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:◎限部智之			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	作業療法の成り立ち 【限部】	対象者の作業を提案できるようにするために、作業が治療法として成り立つ要件と治療法としての根拠を理解できる。	
2	作業療法の成り立ち 【限部】	対象者の作業を提案できるようにするために、作業が治療法として成り立つ要件と治療法としての根拠を理解できる。	
3	作業療法の体験 【限部】	くす玉作り:対象者に身体機能・心理機能・社会的活動などの目的に応じた作業を提案できるようにするために、物づくりを通して作業の意味・要素・機能を考察できる。	
4	作業療法の体験 【限部】	くす玉作り:対象者に身体機能・心理機能・社会的活動などの目的に応じた作業を提案できるようにするために、物づくりを通して作業の意味・要素・機能を考察できる。	
5	タイルモザイク① 【限部】	タイルモザイク(工程・道具・材料の説明、図案)	
6	タイルモザイク② 【限部】	タイルモザイク(タイルの貼り付け、仕上げ、ディスカッション)	
7	革細工① 【限部】	革細工(工程・道具・材料説明、図案、裁断)	
8	革細工② 【限部】	革細工(スタンピング、カービング)	
9	革細工③ 【限部】	革細工(染色、裏の処理)	
10	革細工④ 【限部】	革細工(穴あけ、レーシング)	
11	革細工⑤ 【限部】	革細工(仕上げ、ディスカッション)	
12	木工① 【限部】	木工(工程・道具・材料説明)	
13	木工② 【限部】	木工(組み立て)	
14	木工③ 【限部】	木工(サンディング、釘打ち)	
15	木工④ 【限部】	木工(仕上げ、ディスカッション)	
教科書・参考書・資料			
教科書:濱口豊太(編) 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院 その他資料は各作業で配布します。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:レポート・作品提出50点 素点:筆記試験50点		作業しやすく、汚れても良い服装で参加して下さい。 教室内の移動が多いので、足元に荷物を置かないようにお願いします。 水道利用後は必ずハンカチで手を拭き、床に水を垂らさないようにして下さい。 準備・片付け・掃除は時間を見ながら全員で協力して行います。 木工は材料費として1,000円程度がかかります。	

OT1年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		対象者の作業を提案できるようになるために、作業が治療法として成り立つ要件と治療法としての根拠を理解した上で様々な作業を体験し、各作業について考察する。	①対象者に身体機能・心理機能・社会的活動などの目的に応じた作業を提案できるようになるために、物づくりを通して作業の意味・要素・機能を考察する。 ②作業に使用する道具の名称と用途を覚える。 ③基礎作業学に関する問題が解ける。
基礎作業学 (※ 後期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:隈部智之 非常勤:湯野川 恵			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
16	マクラメ① 【隈部】	マクラメ(説明、材料の採寸、切断、編み系つけ)	
17	マクラメ② 【隈部】	マクラメ(仕上げ、ディスカッション)	
18	音楽① 【隈部】	歌唱、楽器演奏、体操など	
19	音楽② 【隈部】	歌唱、楽器演奏、体操など	
20	包括作業分析について(講義) 【隈部】	作業分析の種類や包括的作業分析について学ぶ	
21	陶芸① 【湯野川】	『焼き物の出来るまで』プリント説明	
22	陶芸② 【湯野川】	手づくね、手びねり作り(白土・赤土)	
23	陶芸③ 【湯野川】	仕上げ、削り	
24	陶芸④ 【湯野川】	板作り(赤土、白土)	
25	陶芸⑤ 【湯野川】	板作り作品、化粧掛	
26	陶芸⑥ 【湯野川】	素焼き	
27	陶芸⑦ 【湯野川】	絵付け、釉掛	
28	陶芸⑧ 【湯野川】	釉掛、窯づめ、釜たき、電動ロクロ)	
29	陶芸⑨ 【湯野川】	窯出し、講評	
30	まとめ(定期テスト)	試験を通して理解度を確認する	
教科書・参考書・資料			
教科書:濱口豊太(編) 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院		その他資料は各作業で配布します。	
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:レポート・作品提出50点 素点:筆記試験50点		作業しやすく、汚れても良い服装で参加して下さい。 教室内の移動が多いので、足元に荷物を置かないようにお願いします。 水道利用後は必ずハンカチで手を拭き、床に水を垂らさないようにして下さい。 準備・片付け・掃除は時間を見ながら全員で協力して行います。	

OTI年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		地域リハビリテーションの理念・概要について学ぶ	①地域医療や地域リハビリテーションの成り立ちについて理解できる ②各種制度・支援・他職種との連携について学ぶ ③地域作業療法における実際の流れを理解できる ④地域で働く作業療法士の姿が具体的にイメージすることができる
地域リハビリテーション			
1単位	8回		
作業療法学科：◎隈部智之 非常勤講師：鈴木絵里子			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	地域リハビリテーションの基盤と背景 【隈部】	地域リハビリテーションを理解するために、地域のとらえ方や地域医療、地域におけるリハビリテーションの歩みを学ぶ。	
2	地域リハビリテーションを支える制度 【隈部】	地域リハビリテーションを支えている制度や施策を知る。	
3	症例 【隈部】	症例を通して地域リハビリテーションを考える。	
4	国家試験問題演習 【隈部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする。	
5	地域作業療法の実践① 【鈴木】	地域で働く作業療法士について学ぶ。	
6	地域作業療法の実践② 【鈴木】	地域で働く作業療法士について理解する。	
7	地域作業療法の実践③ 【鈴木】	地域で働く作業療法士について学びを深める。	
8	まとめ(定期試験)	試験を通して理解度を確認する。	
教科書・参考書・資料			
参考書：標準作業療法学 地域作業療法学 医学書院			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：小テスト30点 素点：定期試験70点		授業が有意義な時間となるように取り組んでいきましょう。	

OTI年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		作業療法士が専門職として就労支援に関わる時に必要な知識を学ぶ。	1. 職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割について理解する。 2. 職業リハビリテーションにおける作業療法士の過程を理解する。 3. 職業リハビリテーション関連施設の機能と役割を理解する。
職業リハビリテーション			
1単位	8回		
作業療法学科:◎隈部智之 非常勤講師:谷口彩乃			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	職業リハビリテーション概説 【隈部】	職業リハビリテーションの概要について学ぶ。	
2	障害者と職業 【隈部】	障害者にとって職業の意味を理解する。	
3	職業関連活動における作業療法 【隈部】	職業関連活動について学ぶ。	
4	支援の実際① 【谷口】	就労支援について理解する。	
5	支援の実際② 【谷口】	就労支援について学ぶ。	
6	支援の実際③ 【谷口】	就労支援について理解する。	
7	支援の実際④ 【谷口】	就労支援について理解を深める。	
8	まとめ(定期試験)	試験を通して理解度を確認する	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
教科書・参考書・資料			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:小テスト・レポート 30点 素点:定期テスト70点		『働く』とはどのような意味があるのでしょうか。就労支援の作業療法について学んでいきましょう。	

OT 年	通年	講義概要	一般目標
専門分野	見学実習 (前期)	様々な分野への見学・体験を通じて、作業療法の幅広さや専門性を理解する。各施設における特徴、作業療法士の役割、他職種との連携、地域の取り組み等の理解を深める。 また、対象者との交流を通し、コミュニケーション技能を身につける。 1.5時間×15回=45時間	①様々な分野への見学・体験を通じ、作業療法の幅広さや専門性を理解する。 ②各施設の概要や作業療法士の役割を理解する。 ③対象者との交流を通し、コミュニケーション技能を身につける。 ④作業療法士の役割や他職種との連携、地域の取り組み等についての理解する。
1単位			
作業療法学科:兼子健一, 武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	見学実習 オリエンテーション	見学実習の説明	
2	どんぐりの郷 オリエンテーション 【鎌田】	どんぐりの郷 見学実習前オリエンテーション	
3	どんぐりの郷 見学①	障害者支援施設(福祉領域)における作業療法士の仕事を見学する	
4	どんぐりの郷 見学②	障害者支援施設(福祉領域)における作業療法士の仕事を見学する	
5	千葉リハビリテーションセンター 見学①	リハビリテーションセンターにおける作業療法士の仕事を見学する	
6	千葉リハビリテーションセンター 見学②	リハビリテーションセンターにおける作業療法士の仕事を見学する	
7	夏期見学実習オリエンテーション 【発達支援つむぎ】	発達支援つむぎ 見学実習前オリエンテーション	
8	夏期見学実習オリエンテーション 【あすなろクリニック】	あすなろクリニック 見学実習前オリエンテーション	
9	夏期見学実習オリエンテーション	夏期見学実習オリエンテーション 実技練習(標準予防策、車椅子介助、コミュニケーション)	
10	夏期見学実習オリエンテーション	夏期見学実習オリエンテーション 実技練習(標準予防策、車椅子介助、コミュニケーション)	
11	あすなろクリニック 見学①	地域作業療法(整形外科疾患)の臨床現場を見学する	
12	あすなろクリニック 見学②	地域作業療法(整形外科疾患)の臨床現場を見学する	
13	発達支援つむぎ 見学①	発達障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
14	発達支援つむぎ 見学②	発達障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
15	発達支援つむぎ 見学③	発達障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
教科書・参考書・資料			
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 才藤栄一監修 金原出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
棄点:0点 平常点:100点		見学実習の参加日数および提出物で成績判定を行います。 欠席はせずに見学実習に出席するようにしてください。 平常点=提出物50点、能動的参加50点	

OTI年	通年	講義概要	一般目標
専門分野	見学実習 (後期)	様々な分野への見学・体験を通じて、作業療法の幅広さや専門性を理解する。各施設における特徴、作業療法士の役割、他職種との連携、地域の取り組み等の理解を深める。 また、対象者との交流を通し、コミュニケーション技能を身につける。 1.5時間×15回=45時間	①様々な分野への見学・体験を通じ、作業療法の幅広さや専門性を理解する。 ②各施設の概要や作業療法士の役割を理解する。 ③対象者との交流を通し、コミュニケーション技能を身につける。 ④作業療法士の役割や他職種との連携、地域の取り組み等についての理解する。
1単位			
作業療法学科:兼子健一, 武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
16	袖ヶ浦さつき台or君津中央(身体)見学①	身体障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
17	袖ヶ浦さつき台or君津中央(身体)見学②	身体障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
18	袖ヶ浦さつき台or君津中央(身体)見学③	身体障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
19	袖ヶ浦さつき台or君津中央(身体)見学④	身体障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
20	袖ヶ浦さつき台or君津中央(身体)見学⑤	身体障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
21	袖ヶ浦さつき台(精神)見学①	精神障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
22	袖ヶ浦さつき台(精神)見学②	精神障害領域の作業療法の臨床現場を見学する	
23	実習報告会資料作成	報告会資料作成	
24	実習報告会資料作成	報告会資料作成	
25	実習報告会	見学実習報告会 経験をシェアする	
26	実習報告会	前半まとめ	
27	OSCE見学	OSCEゼロ見学 2年生に向けて実技試験場面を見学オリエンテーション・見学	
28	実習報告会	評価実習報告会に参加	
29	実習報告会	地域リハ実習報告会に参加	
30	2年生に向けて	1年生の成果、そして2年生に向けての課題を確認する<技能面>	
教科書・参考書・資料			
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 才藤栄一監修 金原出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点:0点 平常点:100点		見学実習の参加日数および提出物で成績判定を行います。 欠席はせずに見学実習に出席するようにしてください。 平常点=提出物50点、能動的参加50点	